

事業報告書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進等の事業を行った。

(1) 調査研究事業

阿寒川水系の水と森林に関する調査（平成16年度からの継続調査）

阿寒川水系の水と森林に関する調査を昨年度に引き続き実施した。財団が管理する森林内を流れる阿寒川水系上流域における3河川（キネタンベツ川、チクショベツ川については平成16年度より継続、チュウレイ川については、平成27年度より継続）で降雨量、流量、土砂濃度等の調査を実施した。

事業費 1,184,182円(予算額 1,200,000円)

(調査：山形大学農学部 菊池俊一准教授)

事業概要

現地調査

日程 令和元年6月12日 河川水自動採取装置3箇所設置

(チクショベツ川、キネタンベツ川、チュウレイ川の各調査区)

令和元年6月～11月 水の採取等の現地調査実施

(2) 人材育成事業

1) 一歩園自然セミナー開催事業

ニホンザリガニは環境省のレッドリストでは絶滅危惧種Ⅱ類（VU）に指定されており、絶滅が危惧されている。阿寒湖においてもニホンザリガニが生息しているが、ウチダザリガニの侵入・定着以降、ニホンザリガニの生息地は縮小し、生息数が激減している。このための対策として生息地の環境の把握が緊急の課題となっているが、広範囲での生息環境の探索は生息地環境に負荷を与えるだけでなく多大な労力とコストがかかることから、環境負荷をかけず精度の高い調査方法として環境DNA調査が開発された。この方法により2016年に阿寒湖にて得られたニホンザリガニとウチダザリガニに係る生息状況データと両種が混在する河川を現地観察することにより、阿寒湖のみならず全道規模で懸念されている在来生物と特定外来生物との軋轢並びにその取り巻く環境を学び、感じる実体験型セミナーを開催した。

事業費	230,369円（予算額 440,000円）		
事業概要			
日時	令和元年11月16日（土）9時30分～14時30分		
	・講演『汲んだ水でザリガニ探し～環境DNAって何だ？』	10時10分～11時00分	
	・ニホンザリガニ生息地観察	12時30分～13時40分	
会場	・講演 阿寒湖まりむ館／トラサンペ・ユーカーラ（大会議室） ・現地観察 阿寒湖北側森林内小河川（3105林班）		
参加者	26名		
講師	照井滋晴 氏（NPO 法人環境把握推進ネットワーク-PEG-理事長）		

2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の保全などに関する知識の習得を促進するため、前年度に引き続き、釧路市前田奨学金に対して助成を行った。

事業費

1,000,000円(予算額 1,000,000円)

(3) 普及啓発事業

1) 観察会開催事業

(ア) ネイチャーウォッチング

コウモリは空を自由に飛ぶことができる唯一の哺乳類である。日本に生息しているコウモリは35種、北海道に生息しているコウモリは20種とされているが、その中の15種は絶滅が危惧されている。しかしながら、その現状や生態・習性などは、一般的にはあまり認識されていない。特に、生息数の激減については他の野生動植物と同様、住处となる森林などの自然環境の消失が大きな要因を占めると考えられていることなどから、我々人間の身近に存在しながら、あまりにも知られていない「コウモリ」を通して、森林の必要性に触れる実体験型観察会を実施した。

事業費

423,365円(予算額 404,000円)

事業概要

日時 令和元年8月3日(土) 午後6時00分～午後9時00分

現地観察 光の森周辺

室内講義 阿寒湖まりむ館／トラサンペ・ユーカーラ

参 加 者 20名（釧路市全域公募の小学4年生～小学6年生及び保護者）

講 師 近藤 憲久 氏（道東コウモリ研究所 代表）

渡辺 恵 氏（道東コウモリ研究所）

（イ）自然観察支援事業

当財団管理山林内において、北海道教育大学附属釧路小学校「自然環境教育プロジェクト」と連携し、同校小学2年～6年生を対象に、森林、河川、野生動植物、水生生物、昆虫等を題材に教科教育と連動した自然体験プログラム（延べ12回、参加者350名）並びに、津別町教育委員会生涯学習事業「アソビバつべつ！！」と連携した野生生物（エゾサンショウウオ）についてのプログラムを（1回、参加者12名）実施した。

事業費 138,071円（予算額 144,000円）

2）前田一步園財団自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する調査研究等の諸活動に対して助成を行った。また、札幌市において、平成30年度の助成対象者の事業についての報告会を（公財）秋山記念生命科学振興財団と合同で開催した。

事業費 4,932,561円（予算額 6,168,000円）

事業概要

○ 令和元年度被助成者

① 特定非営利活動法人 エトピリカ基金（浜中町）

助成内容：霧多布島のラッコたち出版事業 助成額：600千円

② 特定非営利活動法人 増毛山道の会（留萌市）

助成内容：増毛山道保全整備事業 助成額：770千円

③ 北海道大学大学院文学研究科地域科学講座（札幌市）

助成内容：国際シンポジウム『効果的・効率的外来種管理を目指して-外来種対策の先進技術と管理戦略』の開催 助成額：500千円

④ 大表 章二（蘭越町）

助成内容：写真図鑑「蘭越の樹木」の刊行 助成額：250千円

⑤ 大黒自然研究会（北斗市）

助成内容：大黒島のコシジロウミツバメ繁殖状況調査とシンポジウムの開催 助成額：600千円

⑥ 特定非営利活動法人 サロベツ・エコ・ネットワーク（豊富町）

助成内容：地域子ども達と共に！サロベツ湿原を次世代へプロジェクト！！ 助成額：700千円

⑦ ヒグマの会（江別市）

助成内容：ヒグマの会40周年記録事業「北海道のシンボル、ヒグマ～共存への道のり～」 助成額：500千円

※ 助成総額 3,920,000円

○ 審査経過

平成31年1月15日 募集広報

令和元年5月 7日 審査委員会開催（応募件数：道内の団体・個人より計13件）

○ 審査委員 梶本 孝博 氏（委員長・財団理事）

大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）

大原 雅 氏（北海道大学院地球環境科学研究院教授）

柴田 真年 氏（公益財団法人 北海道環境財団専務理事）

三村 起一 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

東郷 典彰 氏（北海道環境生活部環境局生物多様性担当局長）

3）森林利活用推進事業

財団創立30周年を契機に、平成26年度より取り組みを開始した「森の学校」事業において、「教育の森」（森林を教育的に活用する事業）においては、学校教育の現場で森林並びにその取巻く自然環境（地形・地質・野生動植物・河川等）を活用できる教員育成に資するため、北海道教育大学釧路校学生を対象とした指導者養成事業の「きっかけポン／阿寒の森プロジェクト」を昨年度に引き続き実施した。

「レクリエーション・健康の森」（森林をレクリエーションや健康増進に活用する事業）では観光面での当財団管理森林（光の森・湖北の森）における活用の向上を鑑み、当財団が認定した「一步園森の案内人（ガイド）」による入林申請の利便性を高め、入林に関する諸情報の把握にも寄与できるインターネットを活用したWEB入林システムを昨年

度に引き続き運用した。

「研究の森」（森林を学術、調査研究に活用する事業）では東京農業大学生物産業学部との連携協定に基づき財団管理森林内において天然林やエゾシカをテーマにした「卒業研究（４年次）」、「天然林における実習（１年次、３年次）」に対する支援（フィールド案内、講師）を実施した。

○「教育の森」（森林を教育的に活用する事業）

・指導者養成

北海道教育大学釧路校との連携

財団管理森林（光の森）をメインフィールドとして、次世代の教育者を目指す学生に対し、学校教育に係る教材発掘、活用を見据えた自然観察・体験活動の場を提供した。

実施日並びに参加者

令和元年８月１０日～１２日（２泊３日）北海道教育大学釧路校 大学生等２５名

平成元年９月２６日～２７日（１泊２日）北海道教育大学釧路校 大学生等３３名

令和２年２月１３日～１５日（２泊３日）北海道教育大学釧路校 大学生等２７名

○「レクリエーション・健康の森」（森林をレクリエーションや健康増進に活用する事業）

・「一歩園森の案内人」（ガイド）

インターネットを活用したWEB入林システムの運用

「一歩園森の案内人」（ガイド）による入林申請の利便性向上、入林に関するデータの蓄積を目的にインターネットを活用したWEB入林システムの運用を行った。

- ・令和元年度入林者数（平成31年4月～令和2年3月）

入林者数合計 1,017名（日本人840名 外国人177名）

（国籍別内訳）

- ・日本 840人
- ・アジア 110人（中国55人 台湾20人 韓国1名 タイ2名 その他32人）
- ・アメリカ 19人
- ・ヨーロッパ 41人
- ・その他 7名

○「研究の森」（森林を大学や学術機関等の研究活動に活用する事業）

- ・研究支援

卒業論文4件に係る、財団管理森林の解説、研究フィールドの選定支援、研究フィールドの提供を実施した。

実施日並びに参加者

令和元年6月～令和2年3月 東京農業大学生物産業学部生（4年次4名）

- ・実習支援

天然林を中心とした財団管理森林の解説、エゾシカ対策の解説及び食害防止対策（給餌）実施体験・見学（囲いワナ）講師、食害被害調査の支援を実施した。

実施日並びに参加者

令和元年6月22日 東京農業大学生物産業学部生（1年次34名、森林解説、エゾシカ対策解説、食害被害調査支援）

令和元年6月27日 東京農業大学生物産業学部生（3年次29名、森林解説）

令和2年1月11日 東京農業大学生物産業学部生（1年次28名、森林解説、給餌体験、囲いワナ見学）

事業費

747,188円（予算額 845,000円）

（4）顕彰事業

前田一步園賞事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体・個人の優れた業績をたたえて前田一步園賞を贈呈した。また、未来を担う子供（小中学生）たちの自然環境の保全活動を顕彰する一步園ジュニア自然環境賞を贈呈した。

事業費

2,207,126円（予算額 2,588,000円）

事業概要

○ 前田一步園賞顕彰者

- ・「道民の森」ボランティア協会（札幌市） 北海道石狩振興局推薦

業績： 30年の長きにわたり、「道民の森」において指定管理者が実施する「森の観察会」をはじめ

とする様々な催事、植樹活動において森林ボランティアとして協力する傍ら、同会が登山会を実施している神居尻山において登山者への情報提供や高山植物の盗掘防止パトロール、「道民の森」の来園者に配布する野生動植物パンフレットの発行など普及啓発にも尽力。

- ・ 特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ（釧路市）釧路市教育委員会推薦

業績： タンチョウ保護の観点から、農作物への食害や給餌場の過密化など、様々な今日的課題に対応するため、タンチョウに係る繁殖状況調査、生息総数のカウント調査、標識調査などに取り組む傍ら、これらの調査及び研究成果を活かしたタンチョウ保護についての具体的な提言、教育普及活動並びにタンチョウなどのツル類の現状と保護に関する情報発信にも尽力。

○ 一步園ジュニア自然環境賞顕彰者

- ・ 広尾町立広尾中学校（広尾町） 広尾町教育委員会推薦

業績： 国内最大規模のオオバナノエンレンソウ群落を題材として1年生時の開花期（5月）に専門家による野外観察を実施し、結実期（7月）に同群落より種を採種し、学校の鉢に播種。2年後の3年生で発芽を観察する。発芽株は翌年の新1年生が開花期（5月）に現地に埋め戻すことで、郷土の豊かな自然を持続的に観察し保全する活動を実践。

- ・ トムラウシ少年グリーンクラブ（新得町） 北海道十勝総合振興局推薦

業績： 大雪山国立公園のトムラウシ山の山岳環境を守るため、毎年、小学高学年以上の全校児童・生徒による清掃登山を長年にわたり実施する傍ら、平成14年からは登山者に対して「携帯トイ

レ」を持参し、し尿の持ち帰りを促す普及啓発にも取り組む。また、十勝川河畔やヌプントムラウシ温泉周辺の森林でも四季を通じた自然体験、自然観察も実践。

○ 一步園ジュニア自然環境賞奨励賞顕彰者

・川湯少年少女グリーンクラブ（弟子屈町） 弟子屈町推薦

業績： 阿寒摩周国立公園内を活動の拠点として、花壇、植樹（ヤチダモ・サクラ・アカエゾマツ）や木育活動、自然観察なども実践しながら自然保護と団員の健全な身体及び健全な精神を養う。

○ 審査経過

令和元年 5月 8日 候補者推薦依頼（環境省、北海道、市町村、市町村教育委員会）

令和元年 8月 21日 審査委員会開催

（推薦件数：前田一步園賞 5件、一步園ジュニア自然環境賞 3件）

令和元年 10月 27日 表彰式（出席者：43名、当財団役職員含む。会場：ホテルポールスター札幌）

○ 審査委員 梶本 孝博 氏（委員長）

大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）

大原 雅 氏（北海道大学院地球環境科学研究院教授）

柴田 真年 氏（公益財団法人 北海道環境財団専務理事）

三村 起一 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

高橋 奉己 氏（北海道環境生活部環境局生物多様性保全課長）

（５）地域保全事業

１）山火事予消防活動助成事業

阿寒湖畔地区の森林を火災から守るため、森林愛護思想の普及啓発と山火事予消防活動への支援、装備の充実に必要な用具に対して助成を行った。

事業費（助成） 178,050円（予算額 300,000円）

（助成先：阿寒湖畔森林愛護組合）

２）エコミュージアムセンター活動助成事業

阿寒湖畔エコミュージアムセンターの活動に対して助成を行った。

事業費（助成） 800,000円（予算額 800,000円）

（助成先：阿寒湖畔エコミュージアムセンター運営推進協議会）

（６）前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行った。

事業費 600,000円（予算額 900,000円）

2. 森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、令和元年度においても引き続き保全管理・人工林保育・天然生林改良等の事業を実施した。

(1) 保全管理事業

1) 巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止、自然保護思想の普及等を図るため、林内に巡視人や、林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全及び活用にかかる北海道の「公有財産管理委託業務」を受託し、当該土地及び立木の管理に関する業務を実施した。

事業費 1,978,000円（予算額 2,000,000円）

（請負等先：阿寒湖畔森林愛護組合、(有)前田一步園林業）

2) エゾシカ食害対策事業

北海道の発表によると平成30年度のエゾシカによる道内農林業被害額は38億5千8百万円（前年度比7千万円減）であった。振興局別の農林業被害金額は、5振興局で減少しているものの、空知、石狩、後志、檜山、上川、留萌、宗谷、十勝、釧路では増加となった。なお、被害金額の多い上位3振興局は、釧路が11億6千万円（＋1千4百万円）、根室が5億円、十勝が4億6千万円となっている。

北海道では平成12年度より「エゾシカ保護管理計画」を策定し個体数管理等の取り組みを推進しており、現在第5

期（平成２９年度策定）の管理期間（５年間）である。第５期計画期間において個体数指数（釧路市を含む東部は平成５年度の指数を１００と設定）を５０以下にする目標を設定しているが、平成３０年度の東部個体数指数は１２０（対前年度比＋６ポイント）であった。

なお、同計画において個体数指数５０は「大発生水準」、２５を「暫定目標水準」と定めており、これらの状況を踏まえると、依然捕獲対策の推進が必要な状況にあると考えられる。

このような中であって、財団管理森林内においてはこれまで継続してきた給餌や囲いワナによる捕獲といった対策事業により樹皮喰等の被害を抑制することに成功しているが、楽観視はできない状況である。

このため、令和元年度も前年度同様「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった対策事業を継続して実施したことにより森林被害防止に努めた。これらの対策とあわせて、エゾシカの生息状況や給餌事業の効果などについて、大学や研究機関と連携して調査を実施した。

令和元年度の事業量は、平成３０年度設置の囲いワナ２基撤去、令和元年度囲いワナ２基の設置、ビートパルプ給餌８４３個（５０，５８０ｋｇ、補助金活用６４個を含む）および、囲いワナ（２基）による捕獲（５４頭、令和２年１月～３月）である。

なお、令和元年度の森林被害防止対策の内、囲いワナの設置（２基）及び囲いワナ内の誘引を目的とした給餌（６４個）に関しては、補助金（令和元年度エゾシカ森林被害防止強化対策事業）の交付申請を行い、同補助金を活用し実施した。また、令和２年１月～３月に捕獲したエゾシカ（５４頭）については、令和元年度鳥獣害被害対策防止総合対策交付金を申請し、同交付金を受領した。

事業費 ９，５９８，６００円（予算額 ９，３４０，０００円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

事業概要

- ・給餌事業

給餌場 18箇所での給餌

(冬期：令和元年12月18日から令和2年3月30日まで実施)

- ・ 囲いワナ設置、捕獲事業

(令和2年1月28日から3月31日まで捕獲実施)

捕獲回数 18回

捕獲頭數 54頭

春の雪解け後の全山林道・作業道の支障木除去、ならびに既設の林道・作業道の維持管理、および排水管・止水板等の関連設備の補修・設置を実施した。

事業費

4, 272, 000円 (予算額 4, 580, 000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

4) 調査事業

林分構成の整備を図るため、現況調査を令和元年度間伐実施区域である3112林班の天然生林にて行った。加えて、調査に必要な消耗品、備品を購入した。

事業費 420,720円 (予算額 1,800,000円)

5) 危険木等処理

危険木・支障木等の処理（伐採・移動等）を実施した。

事業費 431,000円 (予算額 500,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

(2) 人工林保育事業

1) 植樹祭事業

植樹祭に係る苗木の購入、地拵え、下刈を実施した。

事業費 316,000円 (予算額 300,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

2) 除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林78haの間伐、31haの保育間伐、33haの枝打、および伐採木(669m³)の搬出を実施した。

事業費 21,799,843円 (予算額 21,940,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 間伐 : 3076-6、3078-3、3086-4・6・8

保育間伐 : 3084-3・10

枝打 : 3076-6、3078-3

3) 人工造林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成29年度に植栽した人工造林地の4haの下刈を実施した。

事業費 223,000円 (予算額 160,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 3084-12

(3) 天然生林改良事業

1) 誘導造林事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、平成28年度台風被害跡地13haの天然生林の樹下にエゾマツ・トドマツの苗木(8,000本)の植栽を実施した。また、平成28年度台風被害跡地5haを含む9haの地拵えを実施した。

事業費 4,173,000円 (予算額 3,870,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 植栽 : 3074-3

地拵 : 3075-6、3118-2

2) 誘導造林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成26年～27年度に植栽した誘導造林地の20haの下刈を実施した。

事業費 1,070,000円 (予算額 1,810,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 3083-16・22・23・24、3090-17、3093-9、3095-6・16、3104-3・10

3) 天然生林間伐事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、86haの間伐、12haの更新伐、新規森林作業道600mの敷設、および伐採木(1,549m³)の搬出を実施した。

事業費 29,381,557円 (予算額 27,570,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業、釧高運輸(株))

作業実施林小班 間伐 : 3112-2・3・5、3116-22

更新伐 : 3119-3

(4) 業務費

森林保全事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」を支出した。

事業費 1,282,652円 (予算額 1,350,000円)

(5) その他業務

視察等の受入れ

教育機関、行政機関、各種団体からの視察要望に対応した。受入件数は１４件、人数は１５０名であった。

おもな視察受け入れ内容

元年	６月２４日	１日	天然林施業〈大坂林業〉	(２名)
元年	７月３１日	１日	天然林施業〈北海道森林室音別事務所他〉	(１８名)
元年	８月 ８日	１日	天然林施業〈北海道立北の森づくり専門学院〉	(７名)
元年	８月２３日	１日	森林視察〈アカエゾマツサミット〉	(３０名)
元年	９月 ３日	１日	天然林施業〈ＪＩＣＡ〉	(１５名)
元年	９月１３日	１日	天然林施業〈ＪＩＣＡ〉	(６名)
元年	１０月 ８日	１日	天然林施業〈ＪＩＣＡ〉	(１３名)
元年	１０月 ９日	１日	森林視察〈内閣官房アイヌ総合政策室〉	(４名)
元年	１０月１６日	１日	森林視察〈日本製紙(株) 釧路工場〉	(３名)
元年	１０月１７日	１日	森林視察〈一般社団法人パイングレース〉	(５名)
元年	１１月 １日	１日	天然林施業〈ＪＩＣＡ〉	(１０名)
元年	１１月２０日	１日	天然林施業〈ＪＩＣＡ〉	(１３名)
２年	２月２１日	１日	エゾシカ対策〈釧路・十勝・オホーツク総合振興局〉	(９名)
２年	３月１４日	１日	森林視察〈一般社団法人パイングレース〉	(１５名)

3. 土地貸付事業

基本財産である土地（山林、宅地等）は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定されている。さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されているなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り地域の振興に資するため、前年度に引き続き土地の貸付を行った。

（1）土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守と管理を目的に、主に空地等の緑化や車両の進入を防止することを目的にプランターやベンチなどの設置を行なった。

また、財団事務所前の道路法面において、枯芝が目立つようになったことから、景観向上を目的に土壌整形工と芝種子の散布を行った。

事業費

239,800円（予算額 700,000円）

（2）土地貸付

前年度に引き続き、表3-1のとおり土地の貸付を行った。

（表3-1）土地貸付等状況一覧

契約区分	平成31年3月現在		令和2年1月現在		備 考
	契約件数	貸付等面積	契約件数	貸付等面積	
有償契約	204件	523,925 m ²	203件	520,261 m ²	電力会社送電線敷地41haを含む。
無償契約	20件	356,991 m ²	20件	356,991 m ²	北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会外
計	224件	880,916 m ²	223件	877,252 m ²	

4. 温泉事業

当財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。このため、源泉及び温泉供給設備の拡充と安定供給体制をより一層強化するため、施設整備の計画的な推進を行った。

(1) 温泉供給施設の整備

1) 揚湯ポンプの拡充事業

各源泉共通予備の温泉ポンプ（7.5kw×1台）及び、揚湯管（10本）を購入し、温泉の安定供給の確保に努めた。

事業費 2,553,000円（予算額 2,400,000円）

2) 温泉供給施設の整備事業

神社源泉において、供給量の管理や耐久性の向上を目的に、塩ビ管のヘッダー（供給設備）をあらたにステンレス製のヘッダーに改良した。また、それに伴い、ヘッダーの格納施設を新築した。

（参考：平成27年度は15号源泉、28年度は11号源泉、29年度には12号源泉）

事業費 6,315,000円（予算額 6,390,000円）

(2) 資材組立作業台新規製作事業

温泉資材等の組み上げ時に使用する作業台（木製）が、経年劣化から破損し、業務に支障をきたしていたことから、新たにステンレス製の作業台を製作し作業効率の向上を図った。

事業費 487,000円（予算額 500,000円）

(3) 大型発電機導入設置事業

2018年9月6日に起きた北海道胆振東部地震では、北海道全域で長時間停電によるブラックアウトが発生したことを契機に、かねてから発電設備を備えていたカラカミ観光(株)ニュー阿寒ホテルに加え、鶴雅リゾート(株)阿寒遊久の里鶴雅においても大型の発電設備が整備され、両施設においては、停電時においても温泉の受入れが可能となったことから、上記2軒のホテルへ供給している新2号源泉及び13号源泉に水中ポンプ用の大型発電機を設置した。

事業費

4,700,000円(予算額 4,700,000円)

(4) 源泉及び温泉供給設備の管理

令和2年1月現在の当財団所有源泉数は前年度から増減なく15本(内、稼働中11本、休止2本、観測井2本)である。前年度に引き続き、令和元年度においてもこれら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努めた。

(5) 温泉供給

前年度に引き続き、表4-1のとおり温泉供給を行った。

(表4-1) 温泉供給状況一覧

供給区分	平成31年3月現在		令和2年1月現在		備 考
	契約件数	供給本数	契約件数	供給本数	
有償供給	64件	297本	63件	292本	
無償供給	3件	4本	3件	4本	北海道(阿寒湖畔診療所)等
自家用		3本		3本	暖房等財団諸施設
計	67件	304本	66件	299本	

5. その他

(1) ホームページ管理委託事業

ホームページの管理及び、更新等を専門業者に委託し行った。

事業費

216,000円（予算額 216,000円）